

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援・戸外活動・地域交流・医療連携・身体機能維持の5つの課題をあげ、部会、全体会議を行い実践につなげる対応を行っている。	五項目の独自の理念があり、「私たちの願い」として具体的に示したものが食堂に掲げられている。職員の定例会などで折に触れ話し合い、一人ひとりその内容を十分理解している。また、「仕事は楽しくやろう」との掛け声で5つの理念を念頭にケアに当たっている。実践する中で課題や問題点が浮かび上がった時にはスタッフ同士話し合い改善につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアによる本の読み聞かせ、書道教室、絵手紙教室を開催、小学生との交流、外出時のあいさつを心がけ交流を行っている。	近くの小学校の児童との交流が毎月行われている。地域の人々に敷地内のゲートボール場を開放したり地域の体育館で行事がある時は駐車場も開放している。昨年は通常の盆踊りの会場が工事をしていたので地区よりの依頼もあり玄関前の駐車場で盆踊りが行なわれた。散歩に出かけると食べきれないほどの野菜などを頂くこともあり、多くのボランティアの来訪もある。3年目に入り2年目より確実に地域の方々との関わりが深まっており、施設の駐車場を地域の方が横切るときにも利用者と自然に挨拶を交わすようになってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加までいかないが、地域の行事など見学、来訪など関わりを持てる場面では積極的に交流を行うように努めている。ゲートボール場は地域に開放し自由に使用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、委員会メンバーの更新した。基本的に、偶数月第2水曜日の午後会議を開催している。 委員の人は偏りが無いよう配慮し、家族、地域の方の意見を取り入れられるよう務めている。また、施設からの様子を地域へも発信できる関係作り心がけている。	家族、区長、民生委員、市職員で構成され定期的に開催している。ホームの利用状況やヒヤリハット、外部評価など時季に合わせた議題を検討し、委員からの意見をサービス向上につなげている。ボランティアの受け入れを多くしたらどうかとの意見もあり、現在は昨年以上のボランティアの来訪がある。消防団の方とのつながりも出来たので委員になっていただこうと考えている。また、来年度は家族全員に声掛けし会議に参加していただくようにしていきたいとの意向もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括センターとのつながりを持つように、困難事例、空室等の相談、問いかけを行っている。	市で毎月行われるケアマネージャーの会議に参加し情報交換している。ホームの利用状況を定期的に市へ連絡し協力を仰いでいる。介護保険の更新調査は家族の同席を得てホームで行うこともあり利用者の日常生活を伝えている。独居からの利用者の更新申請についても代行をしている。3ヶ月に1回介護相談員の訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で委員会を立ち上げ多くの意見、提案、情報の共有を行い、検討→実施→モニタリングを行う取り組みをしている。拘束を行う場合は家族の了解を得て、最小限の拘束としている。	契約書等に明文化し身体拘束をしないことを家族に伝えている。複合施設として委員会があり拘束に替わるケア方法などについて話し合いをしている。病気のために車椅子になった利用者について、家族との話し合いを基に記録を残し、昼は畳コーナーで休んでいただき、夜間は居室のベッドに転落防止用の柵をすることもある。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行うことが出来ないのが現状だが、職員には人権尊重を基本に接遇向上を徹底している。また職員互いに話し合うことで防止に努めているが、定期的な勉強会を行いたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、研修会、市支援センター職員の説明を受けた。後見人制度は実際に事例相談もあり、早急な研究が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	消費税改定に伴う利用料の変更などの場合家族に説明の上理解を得るようにした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員には家族の代表も選任しているので、会議において生活の実態を説明するとともに、要望や提言をいただき活動に活かしている。	月1回の定期受診付き添いの度に訪れる家族や毎週親に会いに来る方など様々であるが、家族は地元や近隣の市に在住の方が殆どで訪問回数は多い。家族来訪時には基本的に管理者が窓口となり利用者の近況を詳しく伝え意見・要望を聞いている。緊急の連絡は電話でその都度行っている。不定期ではあるが、行事や利用者のスナップ写真を載せた「あい愛通信」が発行され家族のもとへ送られ意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝、夕の申し送り、月1回のリーダー会議、全体会議を実施、部会は必要に応じて行い情報の共有を図っている。	複合施設全体の会議を行い、その後、ホームの話し合いがある。利用者の対応についても時間を割いている。職員間の連絡や提案等はノートを活用し連絡を取り合い情報の共有化を図っている。離職者が少ないことから職員のチームワークがとれていて働きやすい環境であることが伝わってくる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員間は日々の業務での意見交換を行っている。必要に応じて施設長に報告、面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会に参加出来るよう体制作りを行っている。参加した職員からの報告会を行い全職員で勉強会をするように務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネの勉強会に参加し、他施設の情報、活動など話す機会を持ち交流を図っている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪問し、家族や本人からの悩み、不安、今までの生活歴などの話を聞くこと、初期段階には担当のケアマネからの情報を得て、入居後の安心へと繋がるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みから入所に至る過程で、本人や家族の思いを聞く事によって、願いや望まれるサービス提供が出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面接において、本人、家族の意向、思いを確認をし、必要とする支援に務めるような対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、利用者同士や職員が家族の一員としての思いを大切に、食事は利用者と職員一緒に食卓を囲むことや、清掃や洗濯を一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の折には、日々の様子を伝え、時には職員の対応だけでは厳しい場合は、家族の協力をおねがいし、本人の思いに近づける支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽な挨拶、生活の様子などを伝える事を通して友人、家族が面会に来やすいホームになるような雰囲気作りに努めている。	独居から利用に至った方の家の花が咲いたと言って近所の方が花を持ってきてくれたり、昔からの友人の来訪のある利用者がある。家族とお墓参りに出掛けたり、お正月に日帰り自宅に戻り新年を祝う方もいる。昔からの馴染みの美容院を家族とともに利用する方もおり、一人ひとりの状況や希望に合わせ馴染みの場所に行ったり行事に参加したりするなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時にはささいなトラブルもあるが、その際職員が個々の関係作りに関わり利用者同士が気持ちよく過ごせるように努めている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの生活が困難になった場合でも、家族、本人の思いを大切に、次の住まいが決定するまでの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団的ケアの一方で、個人的な困り事の相談を受け、個々の暮らしぶりや思いを大切に関わることができるようにしている。	利用者のプライドを傷つけないように職員からの問いかけや関わりの中で気持ちをくみ取るようにしている。外出時に誰もいない自宅へまわってほしいと希望された場合にも柔軟に対応しており、利用者の要望や希望ができるだけ叶えられるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の中で、健康状態や暮らしぶりを文章として記録する。ほか、行事などの記録を写真アルバムにまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援の状況、特記事項などを記録し、職員間の情報の共有を進め、シフトで変わる職員が同じ支援が行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン→個別援助計画→モニタリングと職員、ケアマネとの定期的な会議を実施する事を、この一年の課題としてきた。最近では、これらからの意見を反映した計画を作成するように努めている。今後とも定期的な見直しができるようにしたい。	職員は数名の利用者を担当している。利用者や家族の要望を聞き、計画作成担当者が大まかなケアプランを作成し、担当職員と細部を詰め、全体会議で更に検討を加えより良いサービスを提供できるようにしている。作成後の計画は利用者や家族へ説明し理解をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、日々の支援での気づきがあった場合、職員間で意見を出しあい、よりよい支援になるように努めている。そのため職員間の情報の共有を図れるようノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の思い、必要としているニーズに対して職員、家族、地域社会と連携し対応出来るよう支援行っている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームだけの活動だけでなく施設周辺への散歩やボランティアの来訪、ニーズに合わせ美容室、スーパー等へ出かける支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の受診、状況に応じて他医療機関受診を必要とする場合、必ず家族に相談の上決定し、受診時は、家族、ケアマネが同行するよう対応している。	利用前からのかかりつけ医を継続している方や家族の要望で協力医へ変更した方など、利用者、家族の意向に沿っている。毎週、協力医による往診がある。併設の有料老人ホームに看護師が常駐しているので日常的に相談が出来るようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日の朝夕の申し送り時、併設施設看護師が参加し情報の共有を行い、適切な指示対応が迅速に行えるよう務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、週に1度の面会を心がけ、病院関係者より利用者の状況を把握し、家族含め今後の生活、支援について相談を行うように務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康管理体制、重度化指針を作成し家族の説明を実施した。	利用者の平均介護度は低いが平均年齢が高く、重度化や看取りに関する指針書を作成し家族に説明している。グループホームで亡くなられた方は現在までいないが、今後家族の最終の気持ちをよく理解しながら、家族、医師、職員で話し合い、その都度対応していく方針である。複合施設1階には家族が泊まれるゲストルームも設けられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時には看護師によるオンコール体制や協力医を要請するほか年1回救急時対応の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。施設内においても係を決め万が一に備えて体制作りを進めている。	昨年度は消防署に計画を提出して行った1件と独自での訓練の計2回実施した。消防署立ち会いの下、車椅子対応等、利用者の状況に合わせた避難誘導訓練も行われた。スプリンクラー、緊急通報装置なども設置されている。複合施設近くの公民館と地域の体育館が地域の避難場所となっている。災害時の備蓄も約1週間くらい蓄えられている。緊急時のマニュアルが入口に掲示しており、AEDも設置されている。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修では、プライバシー保護の勉強会ができていないが、接遇の向上は大切なことと認識しており、個々の慣れから生じる言葉使いなどを必要の都度徹底している。	一人ひとりの利用者に合った対応を職員は心掛けています。利用者が他の利用者に責められると不安がちになるため職員の穏やかな声掛けで少しでも解消できるように働きかけをしている。居室のドアに「開けないでください」と職員が書いたと思われる張り紙が見られたが、居室をのぞかれたくないという利用者の気持ちに沿ったものであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から利用者が、自分の思いを伝え、自己決定しやすい環境作り、雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者それぞれ思いがある。個々のペースでの生活を大切に、画一的な集団的ケアにならないような支援に務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣替えや季節の変わり目には、利用者自身で衣服を選べるような支援や、定期的に美容室へ出かけたり、訪問美容で身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日は厳しいが、野菜切り、皮むきなど利用者と一緒に調理を楽しむことが出来ている。時には、盛り付けもお願いすることもある。また、一緒に外食に出かけることもある。	食材を切ることや食事の後片付けなど、利用者と職員が一緒に行っている。皆でホットケーキを焼いたりおはぎを作ったりすることもあり、利用者は生き生きと参加している。利用者に何が食べたいか聞きながら献立を作成し、当日の感想も献立表に記入され次の機会に活かされている。ランチョンマットを敷き、「頂きます」の掛け声で食べ始めている。敷地内の広い畑の野菜が食卓に上ることもある。静かではあるがニコニコしながら「おいしい」と話しながら時間を掛け殆どの利用者が完食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状態に合わせ栄養バランスに留意しながら個別対応できる範囲で食事提供を行っている。摂取量は記録し日々変化に気づけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個人で実施出来る方は自己管理となっているが、歯磨き、入れ歯の手入れなどの介助、声かけは適宜行っている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援で、記録、情報を収集し、異常ある時は検討行いながら個々の自立に向けての支援に努めている。	全介助の方やトイレまで付き添い下着の上げ下げの必要な方など様々であるが利用者のプライドを傷つけないように配慮している。夜間のみポータブルトイレを使用したり、夜、厚めのパッドを使用するなど工夫している。失敗例やパッドの種類等、排泄全般に関する記録を残し、職員で共有するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、便秘になった場合には職員、看護師、主治医と連携を行い自然での排便になるような支援行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後の入浴を行っているが、利用者の希望により曜日の変更や時間の調整が行えるよう、柔軟に対応している。	入浴については1週間に2回予定している。車椅子の方は職員二人介助で入浴をしている。「1週間に1回でいいよ」と意思を伝える利用者もいるが、気持ちを考えてながら少しずつ回数を増やしている。入浴を拒否する利用者には時間をずらしたり、浴室に入るまで話しかけ間を持たせるような工夫もしている。ゆず湯など季節の風呂も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれ就寝時間がまちまちであるが、個々のペースで生活出来るよう心がけている。週1回のシーツ交換を行い衛生的な寝具で休んでいただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬管理表を使用し、きちんと飲んだかを確認。症状の変化には迅速に対応し、併設施設看護師に報告を行い適切な対応に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアによる歌、書道、絵手紙など楽しみの他、手芸や読書など利用者がやりたいこと、望むことに対して支援出来るように対応している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で、散歩やガーデンに出るの休憩を通して自然に触れ合うことを大切にしている。また、時には自宅へ出かける支援を行っている。	敷地内に広い畑やゲートボール場があり地域の方に開放しているので居ながらにして地域の方との出会いがある。日常の散歩や、季節の行事としてお花見、紅葉狩り、ぶどう狩りなども行っている。外食レクとしてドライブを兼ねながら回転寿司やファミレスに行き好きな物を注文していただいているので利用者には好評である。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりおこずかいとしてお金を預かり、買い物に出かける時に持参して買い物を楽しむ事がある。その際には必ず出納帳に記録して、毎月家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族との電話、ときには家族や友人からの手紙も届いたりする。利用者は大切に保管している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉢植えや季節の花を飾り、季節感を感じられるような雰囲気づくりを行っている。ホールや食堂では、季節の飾りを一緒に作成して展示している。	食堂とリビングが切り離されているので食事が終わるとリビングに移動している。リビングを囲むように居室があり、大きなテレビが置かれ、ソファがいくつも並べられている。明るい色のソファにゆったりと座ったりして利用者が思い思いの場所でくつろいでいる。利用者が願いごとを書いた短冊や折り紙などで彩られた七夕の笹竹が食堂の掲示板の前に飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには大型のテレビを設置、DVDもあり楽しめる。カラオケ設備も整っていて、ほとんど毎日楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来るはもちろん、季節の花などを飾る方や自分で作成した作品を飾る方など、独自の部屋作りを楽しんでいる。	先祖やご主人の位牌、タンス、テレビ、趣味の琴、利用者の手芸の作品などが持ち込まれ一人ひとりの居室作りがされている。居室には洗面台と押入れが備え付けられ、お気に入りの洋服を並べている利用者もいた。ベッドの上にキッチンと畳んだパジャマが置かれ利用者の日頃の暮らしぶりも窺うことができた。毎日、利用者と職員で掃除をしているので居室は清潔で整理整頓されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は、たたみであり、テーブルを置くなどして自宅と同じ雰囲気作りができる。各居室には表札をつけわかりやすくしている。		